

麻しん

麻しんは感染性が極めて高く、免疫のない人たちは簡単に感染します。肺感染症や脳腫瘍といった深刻な症状を引き起こし、入院や死亡につながることがあるほか、免疫力を弱め、長期間にわたって健康に影響を及ぼす可能性もあります。



麻しんに対して免疫があるか、どうすればわかりますか？

次の項目に当てはまれば、麻しんに対する免疫があります。

- すでに麻しんにかかったことがある。
- 生後12カ月以降に、麻しん予防のワクチン(MMRワクチン=麻しん・おたふくかぜ・風しん混合ワクチンなど)を2回受けている。

1969年以前のニュージーランドでは、ほとんど誰もが麻しんにかかっていたため、この時期に国内で生まれたり住んでいたりすれば免疫のある可能性が高いでしょう。1969年以前に諸外国に住んでいた方は、かかりつけの医療機関にご相談ください。

予防接種や検査結果などを記載した過去の医療記録から、免疫の有無を確認することが重要です。免疫があるかどうかを確認する方法については、info.health.nz/measles-immunity をご覧ください。

麻しんの予防策として最も効果があるのは予防接種です。麻しんに対する免疫がない方や**不明の方**は、予防接種を受けましょう(詳しくは、下記の「予防」をご覧ください)。

免疫があれば、麻しんの感染者と接触しても隔離(自宅待機)する必要はなく、発症したり他人にうつしたりする心配もほとんどありません。



麻しんの症状(見た目・体調)

麻しんの潜伏期間は感染後7~21日とされますが、10日以内に発症することが一般的です。



斑点状の赤い
発疹



発熱



目の充血、涙目



咳



鼻水

発症時には、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの呼吸器感染症に似た症状が現れます。何らかの症状が現れてから3~5日後には、発疹が見られるようになり、顔から全身に広がります。**麻しん**に対する免疫がない方(不明の場合も含む)に発熱と発疹が出た場合は、下記の「医師に相談する」を参照してください。



医師に相談する

自分や家族が麻しんにかかったかもしれないと思ったら自宅待機しかかりつけの医師、マオリ系医療従事者、医療機関のいずれかに電話でご相談ください。また、ヘルスライン(フリーダイヤル: 0800 611 116)でも年中無休で電話相談に対応しています。**救急時はダイヤル111に通報してください。**

医療機関を訪れる際は、他者への感染を防ぐため、必ず事前に電話予約をしてください。診察時は、鼻と口を覆う使い捨てマスクを常に着用してください。



麻しんの感染経路

麻しんは感染性が極めて高く、免疫のないたちは簡単に感染します。感染者の咳やくしゃみ、呼吸から感染し、また、感染者が使った後の部屋に入っただけでも感染することがあり、1人の感染者から最大18人が感染すると言われています。

発疹の前後4日以内に自覚症状がないまま、他者にうつすこともあります。



麻しんで重症化しやすい人は？

麻しん感染者のおよそ3人に1人は、入院が必要になるほど重症化します。麻しんは誰でも重症化するおそれがありますが、特に重症化しやすい人もいます。例：

- ・ 5歳未満の子ども、特に生後12カ月未満の乳幼児
- ・ 妊婦や出産から6週間以内の経産婦をはじめ、免疫力が低下している方（妊娠中に感染した場合、母体だけでなく胎児にも危険があります）

マオリ人とポリネシア系の人々は、他の民族集団に比べ、麻しんによる入院の可能性が高い傾向にあります。



麻しんにかかったら？

感染した場合、感染拡大を防ぐため、発疹から4日後まで隔離（自宅待機）する必要があります。こうすることで、他の人への感染を防ぐことができます。通常は全快までに1～2週間かかります。隔離期間が終了しても、すぐに体調が元通りになり、学校や職場へ復帰できるとは限りません。無理をせず、しっかりと休養をとることが大切です。

公衆衛生局から、情報提供や支援のために連絡があります。例：

- ・ 症状と健康状態の確認
- ・ 感染力のある期間に行った場所や接触した相手の確認
- ・ 症状が悪化したときの対処方法の説明



感染者と接触してしまったら？

麻しん患者と接触した場合、「濃厚接触者」または「接触者」のいずれかに類別されます。濃厚接触者が発症リスクが高く、ワクチン接種や免疫の有無に応じて対応が異なります。

公衆衛生局の担当者が、今後受けられる支援やとるべき対応についてご説明しますので、その指示に従ってください。医療記録の確認後、必要に応じて、免疫の有無を調べる血液検査についてご案内します。

免疫がない方は、麻しんを他者にうつすリスクがあります。感染拡大防止のため、隔離（自宅待機）が必要です。

ワクチンを1回しか接種していない方は、麻しんに対する免疫がなく、感染して拡散させる可能性が高いと判断されるため、次のように対応してください。

- 病院、学校、保育施設など、感染が拡大しやすい場所には行かない。
- 重症化リスクが高い人（前述の説明をご覧ください）との接触を避ける。
- 麻しんの症状に留意し、発症した場合はすみやかに隔離（自宅待機）して医療機関に相談する。

免疫があれば麻しんの発症や感染拡大の可能性は非常に低いため、体調に変化がなければ、ふだん通りの生活（通勤・通学など）を続けられます。ただし、発症した場合は、すみやかに隔離（自宅待機）して上記の医療機関にご相談ください。



麻しんの予防

麻しん予防には予防接種が最も有効です。生後12カ月以降にMMRワクチン（麻しん・おたふく風邪・風しん混合ワクチン）を2回接種した人の99%が免疫を獲得でき、発症や感染拡大を予防できます。

- 通常、新生児は生後12カ月目と15カ月目にMMRワクチンを接種します。お子さんを感染から守るために必ず定期接種を受けましょう。
- 18歳未満の未成年者全員、および無料公的医療の対象となる18歳以上の成人は、MMRワクチンを無料で接種できます。公的医療制度の対象者に関する情報は、[公的医療制度 | ニュージーランド政府](#)をご覧ください。
- 免疫機能障害のある方は、MMRワクチンの接種について、事前にかかりつけの医療機関にご相談ください。
- 妊娠中はMMRワクチンを接種できませんが、出産後や授乳期間中の接種は安全です。妊娠を計画している方は、事前に接種することが重要です。
- 麻しんワクチンの2回接種が明らかでない場合は、改めて接種することをお勧めします（追加接種しても健康への影響に問題はありません）。

詳しくは、info.health.nz/MeaslesVaccine をご覧ください。

ワクチン接種については、かかりつけ医、マオリ系医療従事者または医療機関にご相談ください。また、ワクチン接種ヘルpline(フリーダイヤル 0800 28 29 26、月～金 午前8時30分から午後5時)でも無料相談を受け付けています。ヘルplineでは、利用者のご希望に応じて通訳サービスのほか、マオリ人やポリネシア系の担当者、障がいのある方の担当者、聴覚や言語に障がいがある方向けのNZリレーサービスの手配をいたします。ワクチン接種のオンライン予約 info.health.nz/bookavaccine もできます。MMRワクチン投与を行っている薬局も多くあり、一部では子どもの接種も可能です。対応店舗は、healthpoint.co.nz/immunisation で検索できます。



詳しくは：

- ニュージーランド保健省 | Te Whatu Oraの公式ウェブサイト info.health.nz/measles をご覧ください。
- NZリレーサービス (nzrelay.co.nz) は、聴覚や言語に障がいのある方向けの無料サービスです。
- ヘルスライン(フリーダイヤル **0800 611 116**) は、年中無休で医療や罹患時の対応に関するご相談に無料で応じています。午前8時から午後8時のあいだは、マオリ人医師に相談することもできます。通訳およびNZリレーサービス(聴覚や言語に障がいがある方向けの伝達サービス)もご利用いただけます。
- 地方や農村部に在住・滞在する方からの診療時間外のご相談は、Ka Ora Telecare (**0800 252 672**、www.kaora.co.nz) にご連絡ください。
- 障がいのある方向けの専用ヘルplineは、月曜から金曜 午前8時～午後5時までご利用いただけます。フリーダイヤル (**0800 11 12 13**)、SMS (**8988**) でのお問い合わせのほか、healthpoint.co.nz/disability-helpline もご覧ください。